

## 人と土の新しい関係を探る ー国際土壌年2015に向けてー

日時： 2014年4月15日(火) 13:30 ~ 17:00 (展示公開は12:30より)

会場： 科学技術館 6階 第3会議室 (北の丸公園内) <http://www.jsf.or.jp/map/>

アクセス： 東京メトロ東西線 竹橋駅(1b出口)から約550m

東京メトロ東西線、半蔵門線、都営新宿線 九段下駅(2番出口)から約800m

私たちの生活に欠かせない土(土壌)、水、大気は公共財と言われ、その資源的価値から、国や自治体、地域のコミュニティなどが保全のためのルールを設けてきました。しかし、土壌については汚染の防止や対策に関するルールは整備されてきたものの、環境資源としてその保全を謳った枠組みは、我が国にはまだ存在しません。そのため国土のランドデザインにおいても、土壌資源の利活用と持続的に保全するという考え方が乏しい状況にあるのではないのでしょうか。身近な故に忘れがちな存在である土壌について、国連は、来る2015年を国際土壌年と定め、土壌への社会的関心を高めようとしています。我々はこの機会に、21世紀の人ー土壌関係の新展開を考えてみたいと思います。

このワークショップでは以下のようなことを目的としています。

- ー土と社会との関係のあらたな枠組みについて、既存の研究分野を超えて考えてみます
- ー土壌保全のための包括的枠組みの構築に向けた議論を行います
- ー2015年国際土壌年に向け、われわれにできる行動は何かについて意見交換を行います

### プログラム(仮)

- ◇ 本ワークショップのあらまし 村田智吉(国立環境研究所)
- ◇ 身近に感じてもらいたい土壌調査 大倉利明(農業環境技術研究所)
- ◇ 都市の土壌とどう付き合うか 外崎公知(都市緑化機構)
- ◇ 環境倫理と風く土> 亀山純生(元東京農工大学)
- ◇ FAO地球土壌パートナーシップの紹介と日本への期待 Ronald Vargas  
(国連食糧農業機構(FAO))
- ◇ ニュージーランドの土壌保全への取り組み Vincent E. Neall  
(Massey大学、ニュージーランド)
- ◇ 総合討論 浜田竜之介(元東京農工大学)

参加申し込み：参加無料。お申し込みは、以下のメールアドレスに、氏名、所属、連絡先(メールアドレスまたは電話番号)をご記入の上、お送り下さい。また、当日参加も可能です。

E-mail: [soil-workshop@nies.go.jp](mailto:soil-workshop@nies.go.jp) ワークショップ事務局 村田智吉

後援：(独)国立環境研究所、(独)農業環境技術研究所

このワークショップはトヨタ財団の支援を受けて開催されます